

# 産学連携デジタルものづくり中核人材育成事業費

## 平成30年度予算額 0.7億円（新規）

### 事業の内容

#### 事業目的・概要

- 我が国の製造業が今後とも競争力を維持していくためには、IoT等の新たなデジタル技術を習得・活用する人材が欠かせません。
- 製造業のデジタル転換を進めるには、既存のIT講座では得られない知見・ノウハウ（注）が必要ですが、最新のデジタル技術とものづくり分野の特性であるオペレーションノウハウを踏まえた教育プログラムは国内外ともほとんど存在せず、我が国の製造業の特徴に合ったデジタルスキル教育プログラムを新たに作り出す必要があります。

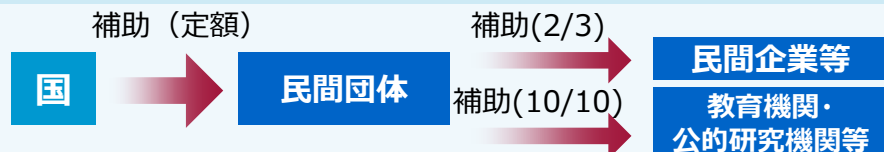
（注）製造業のためのデジタルツール（例えば、設計・開発段階での構造等の解析や生産ラインシミュレーションなど）の習得。

- また、自動化の進展や機器の複雑化・多様化に伴う、製造現場における高度な保守・運用人材の必要性も高まりを見せつつあります。
- 本事業では、製造業の既存従業員等に対するデジタルスキル等の習得やスキル転換のための教育プログラムを開発・提供する産学の連携事業に支援を行います。

#### 成果目標

- 製造業の既存従業員等に対するデジタルスキル等の習得やスキル転換のための教育プログラムを開発・提供する事業を5件程度支援します。

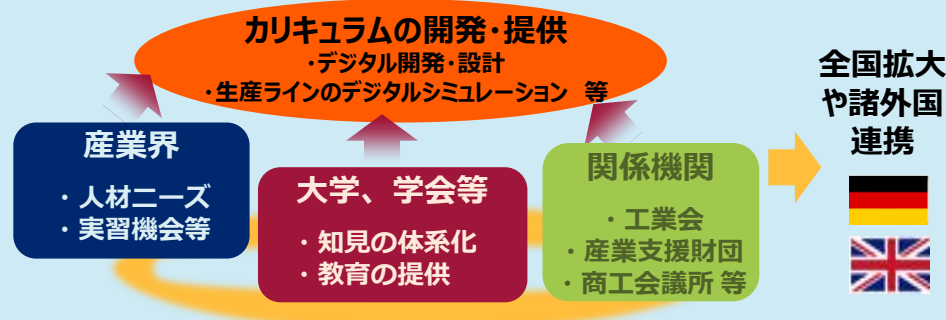
#### 条件（対象者、対象行為、補助率等）



### 事業イメージ

- 大学、学会、高専等の教育機関と産業界が一体となり、製造業の既存従業員等に対してデジタルスキル等の習得やスキル転換を図っていくために、最新のデジタル技術とものづくり分野の特性であるオペレーションノウハウを踏まえた教育プログラム等を開発・提供を行う取組に対し、関連費用を支援します。
- さらに、
  - ①カリキュラムを全国展開するための情報提供等の取組
  - ②諸外国の関係施策や教育拠点との連携などについても進めます。

#### 事業イメージ



#### 【参考】諸外国のデジタルものづくり人材育成拠点（2016～）

##### 製造技術センター（英国）

設計・開発に関するデジタルツール活用教育を提供。自動車や航空機等のトップ企業が製品開発を相談。



##### デジタル製造・イノベーションラボ（米国）

デジタル化が遅れる米国自動車産業既存従業員等に対し、3Dデジタル製造技術等を再教育するプログラムを提供。

